

# 第13回 横浜国立大学ホームカミングデー 横国Day 【報告】

平成30年9月29日（土曜日） 10:00～17:00

会場 横浜国立大学 常盤台キャンパス

横浜国立大学主催による第13回横浜国立大学ホームカミングデー横国Dayは、「森がつなぐ、横国の半世紀」をテーマに、歴史を通じた横浜国立大学の現在までの発展を知ってもらうとともに、卒業生に教職員や同窓の方々との旧交を温め、家族あるいは地域の方々に各種イベントを楽しんでもらい、横国Dayを通して、大学との絆がさらに深まることを願って開催されました。今年は、大学祭とは別日開催となり、落ち着いた雰囲気参加者がキャンパスを歩いている姿が印象的でした。

友松会は午前のプレイベントで、友松会創立130周年記念「第25回豊かな教育を考える会」を開催しましたが、本年度松沢研究奨励賞受賞者の研究発表と研究協議に多数の参加者があり盛会となりました。

## ◇メインイベント 教育文化ホール

- ①ベヒシュタインお披露目演奏  
教育学部 森野かおり講師
- ②学長講演  
「森とともに広がる横国の多様な学びの場」



長谷部学長講演

- ③メイン講演「いのちの森づくり2020～」  
横浜国立大学の緑を世界へつなげよう  
—いのちを守るために—  
横浜国立大学名誉教授 藤原一繪 氏
- ④YNUプラウド卒業生表彰式  
友松会推薦の内藤卯三郎氏 他3名
- ⑤都市科学部の近況紹介・スピーチ  
「都市の未来への挑戦～環境の視点から～」
- ⑥部活動支援プロジェクト  
「YNU CLUB AWARD 2018」
- ⑦ベヒシュタインピアノ演奏 森野かおり講師



教育学部 森野かおり講師

## ◇交流会 15:30～17:00 第一食堂

## 第25回豊かな教育を考える会

10:00～12:00

### 芦川弘友松会会長あいさつ

台風が来るということで天候が心配ですが、大勢の方にお出でいただきました。6月に行われた友松会創立130周年記念総会は、300人を超える出席をいただき盛会となりました。ありがとうございました。大学は、教育人間科学部から教育学部となり、新しい風が吹いております。友松会は130年を迎え、つながりを深め更に結束を強めたいと思います。本日は、優れた教育実践を実証するという形で提案がなされ、充実した時間を過ごしていただきますようお願いしております。



芦川会長

### 杉山久仁子教育学部長あいさつ

国の動きの中で大学教育自体が大変な状況にあります。ただ人を育てる教育がしっかりしていないと社会が成り立たない。特に、小・中学校での学びがとてども大事だと考えます。質の高い教員を養成し、社会に出していきたい。毎年、「豊かな教育を考える会」では、卒業生の活躍を見せていただき大変楽しみにしています。学生にもっと来てもらいたいが、まだ夏休み中で、学生と連絡がつかない状態です。参加している学生には、この貴重な時間でいろいろな学びをしてもらいたい。



杉山学部長

### <研究発表と協議>

○実践研究発表 松沢研究奨励賞受賞者 2名

- ◆テーマ「主体的に学ぶ児童の育成をめざして」  
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫～  
伊勢原市立大田小学校教諭 太田ゆり先生 (H5年卒)  
※本日は校内行事のため、会場ではビデオにて発表

学級には発達の違いや学力差など学びにくさを抱える子どもがいる。そういう子どもの目線に立って授業を見直すことにより授業の改善の視点が見えてくる。子どもがどのような困り感を抱えているか、教師は的確な見取りを行い、子どもにあわせて独創的な支援や手だてを作っていく。その子どもにとっての必要な手だては、結果的に学級の全員にとっても学びやすい指導への工夫とつながる。これが、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」である。適切な支援であったか、めあては達成できたか授業づくりの振り返りを大切にしている。

◆テーマ「社会的な見方・考え方を働かせた  
深い学びをめざして」  
～生徒が主体的に深い学びをする授業の研究～  
横浜市立金沢中学校教諭 井上弘毅先生(H29年院修)

生徒の一言から社会科の教員としてやりがいを感じた。生徒自身が問題意識を見出し、授業時間内だけで完結せず、引き続き問題をつきつめて考えようとしていた。このように問題意識を芽生えさせたいという目標を持ったのが、主題設定の理由である。次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」がキーワードになっており、「深い学び」について探りたいと思った。主題に迫るための手立てとして3点を考えた。①発問内容を工夫する。(考える価値のある発問) ②一人でじっくりと考える時間をつくる。(グループでの話し合いはさせず問いに対して一人でじっくり考える) ③生徒の意見や仮説が価値ある発言であることを実感させる。(ワークやノートに書いた意見に対しての授業者のコメント)



井上弘毅教諭

授業から「もっとこの問題について考えたみたい」「このことを考えるのは面白い」という気持ちが生徒に湧いてきたら、深い学びに向かっていると言えるのではないかと。



豊かな教育を考える会 会場の様子

- 研究協議  
司会 三河紀子氏(S42年卒)
- 指導講評  
横浜国立大学教育学部  
重松克也教授(社会科教育講座)

※研究発表と研究協議の詳細は、次年度発行の会誌「友松109」に掲載予定。

## ◇交流会



長谷部学長



杉田校友会会長



会場の様子



学生歌合唱